

鳥好き

我が家では、オカメインコとヨウム（中型オウムの一種）を飼っています。

「でも鳥つて怖くないですか？目が真っ黒でクチバシ尖ってるし、足なんか恐竜みたいでツメも鋭いし怖くない？」とか言う人多いと思います。僕も幼稚園の時に『ミー』と『ケイ』という文鳥を飼っていましたが、すばしっこくて、すぐ囀んでくるし、挙げ句の果てに団地のベランダから逃げてしまった……。という経緯から何か好きになれなかつたんです。

でも二九歳で結婚する時、嫁さんと一緒に、彼女が小学校五年生の頃から飼っているという、オカメインコの『サーちゃん』がやって来ました。最初は怖かったのですが、愛らしい顔、フワフワした触り心地、そして独特の体臭（何とも説明できない、野性味のある粉っぽい臭い……）。造形的にも軽量の割に豊かな立体感、羽の展開や尾羽の美しさなど、見た目もさることながら、犬のような主人に従順な部分と、猫のような自

片桐仁

プロフィール
1973年生まれ、埼玉県出身。芸人、俳優、彫刻家。多摩美術大学卒業。1996年、コントユニット「ラーメンズ」を結成。舞台だけでなくドラマ、CMに出演するほか、造形への才能も発揮し、粘土細工の個展「片桐仁 感涙の大粉室展」粘土と締切と14年」などを開催。また、声優としても活躍しており「シャキーン」(NHK Eテレ)でジュモコさんを担当。

由奔放さを併せ持つ、スーパーペットであることに気がきました。その後、喋る鳥が欲しくなり、ヨウムの『ウロコ』を衝動買いしまして(二〇〇四年)、今年から亡くなったサーちゃんとソックリなオカメインコの『うめ』を飼っています。

民博に行くと、鳥顔の精霊や神様が世界中にいたことがわかります。中でもアマゾンの、本物のコンゴウインコの羽を貼り込んだお面は、スゴかったです。「現地では、お面や衣装で使うためにコンゴウインコを飼っている」という、お話も面白かったですね。自らの羽で空を自由に飛ぶという、人間には不可能な能力を持った鳥が、神になるという図式は分かるんですが、それ以外にも「何を考えているか分からない」表情、人間と近い場所にいる親しみやすさなども、そういう存在になった一因なんじゃないかしら？

なので、この鳥にまつわる展示イベントをキッカケに鳥に対するイメージが、より良くなると思いますね。

月刊 みんなぱく

1月号目次

- 1 エッセイ 千字文
鳥好き
片桐仁

特集 とり

- 2 鳥と人とのかわり
卯田 宗平
- 4 歌を運ぶ鳥ガルダ
立川 武蔵
- 5 教会の鳥たち
菅瀬 晶子
- 6 鳥の声を愛でる人たち
西山 文愛
- 8 シジュウカラ語を解き明かす
鈴木 俊貴
- 9 ガマや鳥とともに、過去への旅へ
ピーター・J・マシウス
- 10 〇〇してみました世界のフィールド
フランス国立映画センターのアーカイブス
園田 直子

- 12 みんなく Information

- 14 味の根っこ
ワイン
細田 和江

- 16 文化遺産おもてうら
宗教的文化遺産の保全と他者への寛容
——パキスタンより
野口 淳

- 18 手芸考
「刺し子」によるモダンからの脱却
蘆田 裕史

- 20 ながなんちゃ
女性の名前に込める次世代への願い
山田 洋平

- 21 次号予告・編集後記